19 バッコ杉

来歴　昔貧困な炭焼渡世の男が、十二月十二日の『山の神の木調べ』という、入山を禁ぜられていた日にも炭焼に行き、一日の仕事をおえて帰って来た。すると一ト足さきになって、自分の娘バッコ（末娘の愛称）の同じ路を歩いて帰る後姿が見えた。それで男は『バッコ、何用があった、迎えに来たか、一緒に帰るから待て』と呼びかけたが、見むきもしない。男は呼びながら追いかけたが、追いつけず、『かぎかけの杉』の下まで来て見失ってしまった。

そのまま男が家に帰り着いて見ると、バッコは何事もなく留守番をして待っていた。男は禁断の日に山入りをしたので、山の神が姿を見せたものと思った。それから皆この杉を『バッコ杉』と呼んで来たという。

この杉の枝に『かぎかけ』といって、山に入る人は山の神に安全を祈って、木の枝をかける風習があった。それで『かぎかけの杉』とも言って、山の神を祀っていたのである。

（嵯峨）